

# 力ネミ油症事件

戦後最大の食品公害

被害者たちはいかにして生き抜いて来たのか

## 「食卓の肖像」

2011年度 キネマ旬報 文化映画ベスト・テン 第10位

3/26

(土)

沖縄県立  
博物館・美術館  
美術館講座室



## 海燕社の小さな映画会 2016

日 時:2016/3/26(土)

場 所:沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室 (1F)

時 間:14:00開場、14:30開始 (16:15終了)

※途中入場はできません。

料 金:1,000円(要予約)

※先着順、定員に達し次第、締め切らせていただきます。

電 話:098-850-8485(海燕社/カイエンシャ)

『食卓の肖像』 1時間43分／デジタル／2010年

製作・監督:金子サトシ／撮影:内野敏郎、金子サトシ、福本淳／整音:伊藤裕規  
スーパーバイザー:土屋豊、Our Planet-TV／協力:カネミ油症被害者支援センター、  
原田正純ほか／配給:『食卓の肖像』上映委員会／オムロ

【カネミ油症事件とは】1968年に福岡、長崎、広島、山口、佐賀など西日本一帯で発覚した戦後最大の食品公害事件。福岡県北九州市にあるカネミ倉庫株式会社が販売していた食用油、カネミライスオイルを食した人々が健康被害を訴え、翌年までに約1万4千人が保健所などに届け出た。顔面などへの色素沈着や塩素挫瘡(クロルアクネ)など肌の異常、頭痛、肝機能障害などを引き起した。また、被害者の母親から皮膚に色素が沈着した状態の赤ちゃんが産まれ「黒い赤ちゃん」としてニュースで騒がれた。

戦後最大、未曾有の食品公害事件「カネミ油症事件」のドキュメンタリー！

「美容と健康にいい」。そういう触れ込みの食品は、身の回りにたくさんある。もし、それらの食品に毒物が入っていたしたら…。今から40年以上前、現実にそういうことが起こった。戦後最大の食品公害事件と言われている「カネミ油症事件」である。

1968年、福岡、長崎をはじめ、西日本一帯で、食用油、カネミライスオイルを食した人たちが次々に健康被害を訴えた。症状は、大量の吹き出物、目やに、脱毛など多様なもので、苦しむ人たちの姿が報道され、世間を震撼させた。被害者は14,000人以上と言われている。

忘れられていた事件の被害の全貌を10年間の取材で明らかに

事件発生から長い月日がたち、社会の人々の記憶からこの食品公害事件のことはすっかり忘れられていた。しかし、被害者たちは、様々な全身症状でずっと苦しみ続けていた。そして、子どもや孫といった次世代にも健康被害があった。カネミライスオイルの中にはPCBとダイオキシン類が複合汚染で混入していて、それが未知の被害を引き起こしていたのだ。

この映画は、被害発生当時のことや症状の変遷について丹念に聞き取りし、甚大な被害の実態、全貌を明らかにしている。

未曾有の事態の被害者たちはいかにして生き抜いて来たのか

さらに、カメラは食卓や畑など、被害者たちの日常生活の場にまで入りこみ、いまを生きる人々の姿を穏やかな視線で見つめる。また、油症被害そのものだけでなく仕事、結婚、出産など、被害者たちの「その後の人生」のことでも盛り込んでいる。特に、食品公害の被害者であるからこそ、彼らは家族の「食」に気をつかい、自然食や有機栽培などを求めて生きている。その姿から、誰にとっても身近な「食の安全」の問題についても提起している。

未曾有の食品公害の被害者たちはいかにして生き抜いて来たのか。食品公害の被害者だからこそ、家族の「食」をいかにして大切に守ってきたのか。

被害を告発するだけでなく、被害者たちの生きざまを浮かび上がらせた本作は、キネマ旬報2011年度ベスト・テン文化映画第10位に選出されるなど、各方面から高い評価を受けている。

Special thanks from Kaiensha inc.

「海燕社の小さな映画会2016」へのご支援、ありがとうございました。

